

失敗の考察

科目責任者 菊池昌彦
学年・学期 1学年・2学期

I. 前 文

医療現場で遭遇する可能性のある医療過誤、医療事故などを実際にあった事例から拾い出し、そこから得られるさまざまな情報や教訓を探る。

II. 担当教員

非常勤講師 菊池昌彦

III. 一般学習目標

ニュースになった「失敗事例」から学ぶ。最近の医療過誤や医療事故などに注目し、これを「他人事」としてではなく、将来、自分が医療現場に立った場合を想定しながら学習を進める。

IV. 学修の到達目標

新聞やテレビなどで報道された医療過誤、医療事故のほか医療従事者による不祥事を検索し、①記事の概要②原因、問題点③対策・改善点④教訓を一各学生が講義前にレポートしLMSにアップする。他の学生は講義日までに、このレポートを読んで質問を用意。担当学生は講義日に解説を加えながら発表し、他の学生からの質問を受ける。答えられない場合は、次回講義日までに調べて回答する。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	8	19	水	5	総論	菊池昌彦	
2		26	水	5	情報の専有	菊池昌彦	2.5
3	9	2	水	5	誤投与	菊池昌彦	2.5
4		9	水	5	置き忘れ	菊池昌彦	2.5
5		9	水	6	見落とし	菊池昌彦	2.5
6		15	火	5	未熟	菊池昌彦	2.5
7		15	火	6	裁判	菊池昌彦	2.5

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

レポートの内容, レポートに対する質問回数, 出席状況, 授業態度を総合評価して判定。

(評価の割合 = レポート → 80%, 質問回数・出席状況・授業態度 → 20%)

VII. 教科書・参考図書・AV資料

日本新聞協会加盟の全国紙，ブロック紙，地方紙，通信社，NHk，民間放送連加盟のテレビ局，ラジオ局が配信したニュース記事。推薦書がある場合は，講義日に提示する

VIII. 質問への対応方法

講義日に対応。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは評価したうえで，講義日に問題点などを指摘し返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：講義前に医療過誤事件などをレポートする。

事後学習：質問に対する回答を調べる。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。